

本を選ぶ

NO.467 2024年(令和6年)4月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

- <ろん・ぼわん>クレソン 再
- 大学教員ノート 第11回
- 大好きな吉田先生にはブルーの花束を



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

クレソン 再

30年近く前だったのだろうか、「本格フランス料理」なる言葉を聞いて軽い違和感を覚えたのは。まさか簡易フランス料理などは言うまいが、「フランス料理風」などではなく、フランス料理の伝統をふまえた正規教育を受け、それなりに修行・研鑽を積んだプロフェッショナルな料理人が供する料理ですよ、と言いたいらしい。もちろんレストラン側の謳い文句ではなく、飲食店ガイドなどが勝手に練り出した言い方なのだろう。「こだわりの」ようなおかしなほめ言葉もこの頃出現したように思う。

日本でも料亭とか割烹料理屋を始め居酒屋とか大衆食堂などがあるが、フランスの飲食店は、この200年ほどの伝統でレストランのほかに庶民的なビストロ bistro とかブラスリー brasserie などがある。その店の格は、テーブルクロスやナプキンがぱりっとした真っ白な布か、それとも紙なのかで決まるなどの俗説がある。後者がビストロで、たしかに気楽つまり大衆的だ。フランス料理はもちろん西洋料理全般を正統的な教育で日本に確立させようとした辻静雄によれば、レストランと互角のレベルにあるビストロも少なくないという。『新・パリの居酒屋』新潮文庫／1984年

30年前には日本でタイヤメーカーのミシュラン社が発行する赤表紙のレストランガイドを知る人は少なかったと思われるが、日本版が発行されると毎年ニュースに取りあげられ、裾野を広げてラーメン店も評価し始めた頃からぐんと普及したようだ。三つ星から一つ星、ビブグルマンに至るまで、覆面調査員が一定の評価基準で選定しているらしい。星を与えるための評価項目には料理やサービスの質は当然で、店内の家具什器はもちろん化粧室まで対象となる。とびきりの材料を吟味して使い、いわゆる美食の世界への高みを目指し、豪華な環境・雰囲気で最高の料理を供する別世界の店を選び出す、ある意味スノブの領域とも言える。

一方ビストロは、ワインなどアルコールたしなを嗜みながら料理を楽しむ、つまり日本の居酒屋の風情。さらに近年パリではブイヨン bouillon が復活し始めている。ずばり大衆食堂。19世紀末のパリにはブイヨンが200軒もあって盛況だったが、2度の世界大戦などを経て減り続け、シャルティエ兄弟の店だけが生き残った。しかしこの7、8年で10店近くが次々に再登場するといういわばブイヨンブーム。せいぜい20ユーロほどの庶民的で旨い料理を、毎日昼前から真夜中まで通しで提供する。歴史のある店では内装もレトロで重厚、目を瞠る美しい設えで歴史的建造物の指定を受けている。

東京でも通りがかりに偶然ブイヨンの看板を見つけて、期待しながら入ってはみたものの、店内の雰囲気もサービスも、供された料理も目指すところが違うようだ。うーむであった。(埜村 太郎)

大学教員ノート 第11回

－若葉マークの「ことば」－

石川 敬史

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから新しい大学生活が始まりますね。希望や期待、学びへの意欲、しかしその一方で不安などもあるのではないかと思います。私から、この場をお借りして、2点、新入生の皆さんへお話いたします。

みなさん、突然ですが、好きな「ことば」はありますか？ひょっとすると、「好きな歌詞、フレーズは？」と聞くと、これまでに皆さんが出会った曲の中に、印象深い、記憶に残っている「ことば」があるのかもしれませんが。好きな「ことば」として、もしくは、漢字の一文字や、大切な人からのメッセージ、英単語・フレーズなどを思い浮かべている方もいるのではないのでしょうか。

みなさんが入学する学科、文芸文化学科は、「ことば」を大切にす学科です。教育人文学部文芸文化学科のアドミッションポリシーには、次のように記されています。

言葉を有する人間が生み出した文化・芸術に知的な好奇心を抱き、それを追究するための深い洞察力を得たい人

文芸文化学科に入学した皆さんは、「ことば」を軸に、文学・文化・芸術を4年間追究していきます。そのために、たくさんの科目を自ら履修し、主体的に学んでいくことになります。

先ほど皆さんにお尋ねした好きな「ことば」——この好きな「ことば」には、皆さん自身のさまざまな経験、挑戦するという思い、希望の発見、出会いや別れ、大きな壁への克服、明日への一歩、大切な人の気持ち——一言では言い表せない思いが内包されているのではないのでしょうか。なぜならば、好きな「ことば」とは、皆さんの意志や考え、価値観、これからのコンパスにも通じているからです。同時に、このことは「自分中心」に留まることなく、他者に寄り添い、他者に手を差し伸べ、他者を慮り、他者とともに歩む眼差しにも通じるのではないのでしょうか。

4年間の大学生活は長いようで短い、短いようで長い時間です。4年間、ぜひ皆さんにとっての大切な「芯」や「軸」を持ちづけていただきたいと思います。

皆さんにお伝えしたいもう1点は、「主体性」です。高校生とは異なり大学生になると、何か指示をされたり、何かを与えられたりすることは少なくなります。すなわち、自ら考え、自ら行動し、自ら判断していく機会が多くなります。例えば、昨年度までの高校生の場合、固定された教室と机がありましたが、大学生となると、授業が開講される教室に自ら行って、その授業をきっかけに皆さん自身で課題を発見し、図書館などで自ら調べたり、自ら本を読んだりしながら、自ら学んでいくこととなります。

まさに大学とは皆さんの「主体性」が求められるとともに、その学びは誰かに押しつけられる学びではなく、「自由」な学びが広がっています。自ら考え、自ら行動し、自ら判断していくこと——しかしながら、なかなか簡単なことではありません。歩んでいる道の前に大きな壁が出現したり、暗闇のトンネルの中をさまよってしまうこともあると思います。一歩前に踏み出す勇気が求められる時もあるでしょう。そんな時、ふと、近道をしたり、安易な方法を考えたり、楽をしたり、知らないふりをしたり、自分自身に甘えてしまったりしてしまうかもしれません。

論語の一節に次のような「ことば」があります。

行不由徑

行くに徑（こみち）に由らず

裏道や抜け道など安易な方法をとらず、時間はかかっても、堂々と真っすぐに歩いて取り組むことを意味しています。

繰り返しになりますが、4年間の大学生活は長いようで短い、短いようで長い時間です。4年間、皆さんがこうした「主体性」を忘れずに、一歩一歩着実にしっかりと歩んでいくことは、皆さん自身の「人」としての成長

に通じるものと確信します。

ようこそ、文芸文化学科へ！

皆さん、本日、今の気持ち、今の思いを忘れず、自ら誇りをもち、素直になり、他者を認めあい、刺激しあいながら、4年間、ワクワクした学びのスタートになりますことを期待しています。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

* * *

それにしても、なぜ人間というものは、年を重ねていくにつれて、若者に対して説教がしたくなってしまうのであろうか。本年の4月で大学教員という世界に入って12年目をむかえることになった。長いようで短い、短いようで長い時間であった。大学教員という世界の最初の3年間は、共通課程のような、共通課程ではないような、実体のない組織に所属していた。が、4年目から文芸文化学科という温かいコミュニティにお招きいただいた。これまでの「大学教員ノート」の連載に刻ませていただいた通り、多くの学生と物語を編むことができた。

それにしても、何度読み直しても拙文であり、単純であり、説教であり、偉そうであり、啓蒙的であり、お恥ずかしい限りの「ことば」の羅列である。こちらを見つめる若者に対して、どうしてもう少し（いや、さらにもっと）希望のある、可能性のある、未来への道が拓かれるような、これから元気が湧き出るようなお祝いの「ことば」にできなかったのか——今号（467号）の『本を選ぶ』が刊行され、読者の皆様がこの連載をご笑覧いただく頃には、夢や希望のある新入生は、盛大な入学式を経て、細かい連絡が続くオリエンテーションを経て、上級生主催のにぎやかな新歓イベントを経て、高校とは違う大学という科目の履修登録を経て、「芯」と「主体性」をそっと心に中にしまい、大学生活という新しい道を歩み始めているに違いない（と期待したい）。

* * *

それにしても、なぜ私が4月から学科長となってしまったのであろうか。年を重ねたといっても、まだ40歳代

の後半であり、若いようで若くない、若くないようで若い私が、司書課程の運営をはじめ、文芸文化学科の教務委員や入試募集委員などを担わせていただき、日々、走りながら考え、学務に追われてきた数年間であった。長いようで短い、短いようで長い時間であった。これまでの「大学教員ノート」の連載に刻ませていただいた通り、文芸文化学科の末席を汚しながら、多くの先生方とともに物語を編ませていただいた。

それにしても、お恥ずかしい限りであるが、壇上にあがっての「あいさつ」はとても苦手である。考えるだけで手に汗が出る。前学科長を務められ、近代文学をはじめ異文化受容を精力的に研究されるA先生は、学生と同じ目線になりながら、実に自然体であいさつなさっていた。そのお姿には、文字通り「羨望の眼差し」である。学科長という自負や自覚はいつ頃から芽生えてくるのであろうか——今号（467号）の『本を選ぶ』が刊行され、読者の皆様がこの連載をご笑覧いただく頃には、手に汗をかき、緊張しながら登壇して学科長の「ことば」を頼りなく発し、学科長という仕事に悪戦苦闘し、気持ちが表情に出ないように演技し、学科教員の皆様にご迷惑をおかけしながらも、「芯」と「主体性」をそっと心に中にしまい、少しずつ新しい道を歩み始めているに違いない（と期待したい）。

* * *

「とき」の流れ——あと戻りができない「とき」、ひとつひとつの「とき」の積み重ね、長さを自覚する「とき」、ともに過ごし共有する「とき」、今のこの「とき」の大切さ——『とき』（谷川俊太郎・文／太田大八・絵／福音館書店）のページをめくると、過去の歩みがあるからこそ、今の自分が過ごす「とき」が存在していることに気がつく。同時に、今という「とき」は、未来に通じているという確信も伝わる。「とき」の流れに無自覚であったり、自らが客体として「とき」を捉えるのではなく、「とき」は自らが創り出すことができることを教えてくれる。

新入生へ語りかけた若葉マークの「ことば」であると同時に、自分自身に語りかけた若葉マークの「ことば」である。

（いしかわ たかし：十文字学園女子大学）

大好きな吉田先生には ブルーの花束を

ヴィクトリア

3歳になったばかりの息子とは「きょうのおはなし」をすることが、おやすみ前の習慣だ。保育園では何を食べ、どんな遊びをしたのか、何か嫌なことはなかったかなど1日を振り返る。そして最後は「きょう一番楽しかったことはなあに？」とポジティブに締めくくりにしている。ことばの理解が進み、こちらの言っていることの大部分が理解できていると思われ、覚えてたのことばで一生懸命伝えようとしてくれる。

おはなしの前後には、絵本を読むこともあれば『[頭がよくなる！ はじめての寝るまえ1分おんどく](#)』（加藤俊徳監修／西東社／2023年）と一緒におんどくすることもある。我が子の頭が良くなるならと友人の勧めで買ってみた。

先日の「きょうのおはなし」で、「吉田先生はどんな色が合うかな？」と聞いてみた。もうすぐ保育園の卒園式なので、お世話になった担任に花束をプレゼントしたいと思い立ったからだ。「んとね〜、よしだしえんしえーは一、ブルーじゃない？」

なるほど。ブルーか。確かにと思い、面白くなって、他の身近な人も聞いてみる。ママは黄緑、パパは虹色、妹の紗良ちゃんはピンク、ばあばは赤、じいじは緑。一瞬考えながらもそれほど迷わずにテンポ良く答えていく。直球、変化球、こんどはそう来たか！ 1分おんどくの効果が早速出ちゃったかしらと感心しながら受け止めた。3歳なりに、色のイメージを持っているのだろうか。

何も知らずに迎えた卒園式当日。プログラムのテーマは「カラー」だった。壁には色紙で作った虹色の作品が飾られ、子どもたちは「どんな色がすき」の歌を披露する。

どんないろがすき（あか！）
あかい いろがすき
いちばんさきに なくなるよ
あかいクレヨン

ソロパートでは、と言っても、（あか！）の一言だけなのだが、それぞれあらかじめ割り当てられた色を元気良く答える。うちの子はちゃんとと言えるかしらとドキドキしながら親は見守る。息子の色は（あお！）だった。

時に個性は色に例えられる。色んなカラーがあつていい、自分のカラーもお友だちのカラーも大切にしていこうね、という先生からのメッセージだ。息子が大好きな吉田先生にはブルーの花束をプレゼントした。

人のカラーやイメージは香りでも表現できる。そして香りは人の記憶と深く結びつく。すれ違った時にふわっと香った匂いで昔好きだった人を思い出す、というような経験が多くの人にあるだろう。脳には、感情や本能を司る大脳辺縁系と、理性的な思考を司る大脳新皮質があるが、五感の中で唯一、匂いだけが脳辺縁系に直接情報伝達されるかららしい。特定の匂いが、それに結びつく記憶や感情を呼び起こす現象は「ブルースト効果」と言われ、フランスの作家、マルセル・ブルーストの「失われた時を求めて」で、主人公がマドレーヌの香りに触れ、幼少期を思い出した、という描写から命名されたい。平安時代の文香や、源氏物語に多く登場する香りの描写もそれを利用したものかもしれない。

10年ほど前にアロマセラピーに強い興味を持ち、ついには2年かけてInternational Federation of Aromatherapistsという国際資格まで取得した。アロマセラピーとは、植物から抽出されたエッセンスである精油を使った自然療法。香りだけでなく、塗布することで全身へ作用する。勉強の範囲は多岐に渡り、60種類の精油の成分組成とその効能（水兵リーベ僕の船、の世界・・・）、複数の精油を組み合わせるブレンディングテクニック、植物学、マッサージ、衛生学、栄養学など。そして大きなウエイトを占めた解剖生理学。『[はたらく細胞](#)』（清水茜著／講談社／2015年）シリーズは、人の免疫メカニズムなどがマンガで楽しく学べるのでお世話になった。日本において精油はあくまで雑貨扱いで薬理効果を謳うことも認められていないが、フランスでは普通に薬局で精油が売られている。『[パリジェンヌの薬箱](#)』（神津まり

江著／朝日新聞出版／2015年）は、パリに住む女性達の薬箱を紹介するユニークな一冊。彼女達がごく自然に植物の力を日常に取り入れている様子がうかがえる。たくさんの写真から良い香りが漂ってくるようだ。パリでおすすめのハーブ薬局の紹介も。ズラッと壁に並ぶティザンヌ（ハーブティー）は圧巻。それにしてもどこを切り取ってもオシャレに見えるから不思議である。

話は戻って、アロマセラピスト仲間と、お互いのイメージを精油で表現するという遊びで盛り上がったことがある。精油（＝植物）にもそれぞれカラーとイメージがある。

例えば『本を選ぶ』No. 440～444の『乳香』に

登場したフランキンセンスは、甘いウッディな香りの中にスパイシーさがあり、古くから宗教儀式でも用いられるどこか神聖な香り。スピリットに働きかけ、集中したい時に最適。知的なイメージを持つ。ローズマリーは、滋養強壮作用を持ち、心と体にパワーを与えるエネルギッシュな薬理効果の高い精油。シャープな香りは芯の強さを表現できる。精油と人のカラーを分析し、それぞれのイメージを結びつけ、表現する遊びは時間を忘れるほど楽しかった。人から見た自分のカラーと、自分が演出したい自分のカラー。精油でなら無数にある組み合わせから自分だけの特別な香りに出会えるかもしれない。

（ヴィクトリア）

DMがたろく

思春期の「つながる気持ち」はどこへ行く? 関正樹 [著] ●予価1980円(税込) 978-4-535-56431-2

5月中旬刊

学校に行きづらい子どもとネット・ゲーム・SNS

学校に行かない子どもが再び誰かとつながり、居場所を取り戻すために。児童精神科外来で考えるネット・ゲーム・SNSとの向き合い方。

新 さかなの経済学 山下東子 [著] 5月中旬刊 漁業のアポリア

日本の漁業の生産量・生産額はこの30年減り続けている。漁業の未来への活路はあるのか。

●予価2200円(税込) ISBN 978-4-535-55978-3

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

ジョアン・C・トロント／岡野八代 監訳

ケアリング・デモクラシー

市場、平等、正義 ケアに満ちた民主主義へ。待望の邦訳! 3740円

清塚邦彦

絵画の哲学

絵とは何か、絵を見る経験とは何なのか 意味作用の本性と由来を探る。 3520円

勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込 FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

JAPANESE HISTORY for High School **英文**

高校シェアNo.1の日本史教科書に**英語版**が登場!

英文 詳説日本史 JAPANESE HISTORY for High School

佐藤 信 五味文彦 高荳利彦 編 近藤成一 亀井ダイチ利永子 亀井ダイチ アンドリュウ 翻訳

定価3,300円(本体3,000円+税10%)

2024年3月刊行 A5 判 512 頁 ISBN:978-4-634-59116-5

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13 TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

記憶に傷がつくほどの衝撃を受けた。——綿矢りさ 性暴力被害で自分を責めてしまう仕組みを理解できる本。——小川たまか

高級マンションに住む13歳の文学好きな少女が、憧れの国語教師から性的虐待を受ける関係に陥り……。台湾の実話に基づく衝撃作。

新書判／304頁／定価1,980円(税込)

ファン・スーチー

房思琪の初恋の楽園 林奕含 [著] / 泉京鹿 [訳]

白水社 101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2-24 www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811

労働法 第10版

水町勇一郎 著

近年の労働法の大きな変化を取り込みつつ、幅広い読者のニーズに応えて全面的にリニューアル。事例を多数増設、重要判例とのリンクをはかるとともに、構成や項目も時代に合ったものとした。学修に、実務に、研究に。 A5判 3,740円



働く世界のしくみとルール 労働法入門

小西康之 著

「働く」を取り巻くしくみとルールは、私たちの生活・社会をどのように支えているのか。そしてそのために、どのように形づくられているのか。働く中で抱えるさまざまな思いや悩みに寄り添いながら、知り、考えていく入門書。四六判 2,970円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
https://www.yuhikaku.co.jp/

価格は税込

利他・ケア・傷の倫理学

発売即重版!

「私」を生き直すための哲学

近内悠太



利他とは何か、ケアの本質とは何か
人と出会い直し、関係を結び直すために。「大切にしているもの」をめぐる哲学的考察。 1980円

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-11
Tel 03-3518-4940 https://www.shobunsha.co.jp/

日本理学書新刊目録

2024 A5判 / 43頁

- ◆会員出版社 9社の新刊、約130点を紹介。
- ◆科学一般 / 数学 / 物理学 / 化学 / 地球科学・地学・地質学 / 生物科学・一般生物学 / 植物学・動物学の7部門に分類。
- ◆URL <http://www.rigaku.gr.jp>

日本理学書総目録刊行会

<http://www.rigaku.gr.jp>

Think Asia

NO.55 2024 spring-summer

- 前衛(アヴァンギャルド)としての近衛秀麿……石戸信也
 豌豆黄……西井和弥
 タイの死生観:輪廻転生の奥深さと希望の文化
 ……シュンプラング・ナッターデット
 座談会……伴武澄 岩崎育夫 根岸宏和
 硯用水滴……丁美堂

一般財団法人 霞山会(文化事業部)

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47
 電話:03-5575-6301 / FAX:03-5575-6306
<https://www.kazankai.org/>

ESTRELA

■2024年4月号
 No.361/4月10日発行
 B5判 64ページ
 定価1,205円(税込)

[特集] 公的民間統計

- 公的統計マイクロデータを活用したビジネスデモグラフィ統計の推計—スタートアップ企業の開業率の推計—
高橋 雅夫(長野大学 企業情報学部 教授)
- 生活時間データに基づくジェンダー不平等及び2世帯間比較の可視化/
白川 清美(立正大学 データサイエンス学部 教授)
- 新型コロナ感染症拡大下での自殺/
若野 綾子(東海大学 政治経済学部経済学科 専任講師)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
 TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

源氏物語を知る事典 新装版

装丁に
漫画家 山田南平さんの
装画を採用

西沢正史 編
 定価 3,300円
 (本体 3,000円 + 税)
 ISBN 978-4-490-10938-2



不朽の大作「源氏物語」のストーリー展開、人物関係、時代背景、作者像、文学作品としての影響や関係資料などまるごと理解出来る事典。探求学習・レポート作成にも役立つ1冊。

渋沢栄一を知る事典

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 編

2024年
新一万円札の
肖像画に

定価 3,080円
 (本体 2,800円 + 税)
 ISBN 978-4-490-10824-8



多くの企業・団体の設立・経営に関わり日本資本主義の父といわれる渋沢栄一。社会事業や民間外交にも尽くした人物像と業績をコンパクトにまとめた実業家 渋沢栄一を知る最適な入門書。

株式会社 東京堂出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-17
 TEL 03-3233-3741 FAX 03-3233-3746